http://www.akanojutaku.jp
赤野住宅工房㈱
本店:倉敷市玉島乙島6755 Tel.086-523-6222

■身近なニュース、会合、催しなど、お知らせください。
倉敷本社 TEL(086)422-9434 FAX(086)426-1863
総社支局 TEL(0866)92-0254 FAX(0866)92-4284
児島支局 TEL(086)473-3400 FAX(086)473-3407
倉敷販売会社 TEL(086)422-6616 FAX(086)426-7082

思い出の校舎 後に

倉敷市と早島町の公立64小学校で18日、卒業式があり、児童5137人が思い出の詰まった校舎を後にした。

倉敷市西田の豊洲小では、瀬島和美校長が卒業生61人に卒業証書を手渡し、「強く、優しく、プライドを持って生きてください」とはなむけの言葉を送った。卒業生は一人ずつ、できる保育士になります」などと感謝や決意の言葉を述べ、校歌を歌った。

思い出の校歌を歌う卒業生＝豊洲小

東日本大震災は受け、式の冒頭に全員で

総社市の小学校15は23日、卒業式を開

古備路マラソン入賞 瓜生老松小校長

「あきらめず、しっかり」 卒業生を激励

卒業する6年生に思いを伝える瓜生校長

2011そうじゃ吉備路マラソン（2月27日・総社市など）のフルマラソンで入賞した老松小（倉敷市老松町）の瓜生輯正校長（60）が17日、卒業を翌日に控えた6年生160人に「何事もあきらめず、しっかりと鍛えた基礎があったからマラソンに挑戦できた。中学時代の経験は必ず人生のプラスになる。勉強や部活に頑張ってほしい」と激励した。

6年生に通知表を渡す修了式で話した。49歳からマラソンを始めたこと、中学時代に部活動でバレーボールに熱中したことを紹介し、「中学生のころ、体をもっと鍛えておけばよかったと思う。一緒に卒業できてうれしい」と声を掛けられ、涙ぐんだ。（宮本慶一）

瓜生校長は今月末で定年退職。「努力する大切さを児童たちに伝えたい」と教員生活最後の言葉を贈った。

東日本大震災 宮城で活動 倉敷市隊第1陣

道に車散乱、液状化も

被害状況を報告

被災地で活動する倉敷市隊（同市提供）

県緊急消防援助隊の一員として東日本大震災の被災地支援に当たった倉敷市隊の第1陣が18日、同市役所で、現地の被害状況などを報告した。

報告会には伊東香織市長らが出席。隊長を務めた消防局警防課の三宅和孝課長主幹ら5人が現地の写真を見せながら「道路には車が散乱し、液状化もあってひどい状況。水と食料、燃料不足が深刻で、冷え込みもきつかった。被災地は大変な環境にある」と説明した。

市隊の第1陣は消防局の22人で編成。救助工作車や消防ポンプ車など7台の車両に分乗し、震災翌日の12日朝に出発。16日まで宮城県多賀城市で、車両や浸水した建物内での安否確認、火がくすぶり、石油コンビナートの消火などに当たった。

作業は同日から第2陣22人が引き継いでおり、第1陣は17日に倉敷市に戻ってきた。（三木良一）

被災地の状況を報告する倉敷市隊の第1陣メンバー

医師と保健師を派遣

倉敷市が岩手・大船渡へ 市民寄付物資も

東日本大震災の被災者支援のため、倉敷市は18日、市保健所の医師、保健師らを岩手県大船渡市に派遣した。市民らから寄せられた支援物資も一緒に送った。

厚生労働省の要請に応じた。派遣するのは、医師1人と保健師2人。大船渡市で1週間程度、被災者らを診療したり、健康相談に応じる。

医師、保健師のほか、事務職員4人も同行。医師らの活動をサポートしたり、今後の支援に向けた情報収集、支援物資の搬送などに当たる。

支援物資はマスク5万枚、保温性下着2千着、紙おむつ3千枚、米400キロなど。

市本庁で出発式があり、伊東香織市長が「被災者の体調管理、心のケアに尽くしてほしい」と激励。派遣職員は乗用車と、支援物資を積んだ4トントラックに分乗し、出発した。（土井一義）

出発式で整列した派遣職員

灯油や豚汁食材を発送

AMDA要請受け総社市

総社市は18日、東日本大震災の被災地支援で、灯油2千缶、軽油1千缶、豚汁1500食分の食材などを発送した。多文化共生で提携する国際医療ボランティアAMDA（本部・岡山市）が活動中の岩手県大槌町などで被災者に届ける。

AMDAの要請を受けて対応。総社市内の石油販売業者にタンクローリーを借りたほか、豚汁の食材となる野菜を市職員が切り、保冷用の氷と一緒に鍋に収めた。

職員4人が2トントラックとタンクローリーで搬送。市役所で出発式があり、片岡聡一市長が「現地は食料、燃料が不足している。一刻も早く物資を届け、被災者を支えていきたい」と述べた。

総社青年会議所もメンバー3人が現地に向かい、豚汁配布などに協力する予定。（新田真浩）

総社市役所を出発するタンクローリー

被災者支援に市民1人100円

総社市

総社市は18日、東日本大震災の義援金673万7300円を盛り込んだ2010年度一般会計補正予算案を2月定例市議会に提案、可決された。

義援金は総社市民6万7373人（1日現在）が1人当たり100円を支援する換算。全国市長会を通じて被災地へ送る。

補正予算は、予備費として残す700円を含めて計上した。（新田真浩）

35議案を可決

総社市議会閉会

2月定例総社市議会は18日、本会議を再開。2238億2千万円の2011年度一般会計当